

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

中央中学校区	校番 16	福山市立中央中学校
最終更新日		2025年(令和7年)3月1日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の不登校生徒が増加している傾向にある。校区としての取組を進めてほしい。 ・小中学校の授業参観から子ども主体の学びを育む様子が感じられた。引き続き子どもたちの主体性を育む取組を進めてほしい。 ・評価項目の8項目において、十分満足、概ね満足できるという肯定的評価をいただいでおり、引き続き努力してほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校において、子どもの主体の学びづくりの中で主体性が育ちつつある。 ○小中で授業研究をすすめ、自分の考えをもち深め、対話する力をつけてきている。 ●全国学力調査の結果から特に中学校における数学、国語の力を伸ばす必要がある。 ●不登校傾向にある児童生徒数の出現率が中学校で高い。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>『学びに向かう力』 『課題発見・解決力』 『自己肯定感の向上』</p>
		<p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している</p>
		<p>中学校区として統一した取組等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 校区合同で実施する授業研究 2 中学校生徒会による「学校紹介」の実施 3 校区校長会、校区教頭会、校区各主任会等を通しての連携

III 自校

<p>ミッション</p> <p>地域や保護者の信頼に応え、地域住民から愛される学校</p>		<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力</p>
<p>学校教育目標</p> <p>一人一人が、生きる力を育み、輝ける教育の推進</p>		<p>めざす子ども像</p> <p><自己を認識する力></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の性格や得意なこと、興味・関心を持っていることなど、“自分自身”を理解する力を身に付けた生徒 <p><自分の人生を選択する力></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来の夢や目標、自分がやるべきことなどを、自分自身でしっかりと考え、自分で選ぶ(決める)力を身に付けた生徒 <p><表現する力></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のこと、自分の考えや思いを、相手に理解してもらえるように、工夫しながら伝える力を身に付けた生徒
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導上の大きな問題行動の割合は下がってきた。 ○学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが出来る生徒の割合が増えた。 ●学力の伸びの調査において、2年から3年は伸びてきているが、1年から2年は下がる傾向にある。進路などを意識することなどで学習する意欲に差が出ている。 ●不登校傾向にある生徒の割合が昨年度と比べて高くなっている。 ●体力テストでの数値が県、市と比較して低い種目が多い。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習規律は概ねできている。 ●家庭学習の習慣化は、学年間に差があり、個々の学力の差につながっている。 ●課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいく生徒の割合が低い。 	<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>学習意欲の向上と基礎学力の向上</p> <p>内容等</p> <p>授業者の色を出して、子ども主体の学びを創る 授業の相互参観を行い、互いの授業力の向上</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>自ら考え、探究的・協働的に学ぶ生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲が高く、学びたい、知りたいといった知的好奇心や関心意欲が高い。 ・他者と関わり合い、教え合い、話し合いがあり、学びが深化する。 ・失敗を恐れずに安心して発言ができる。 ・自分の考えを持ち、進んで学び、課題解決ができる。 ・授業の中で、たくさんの「できた!わかった!」が内包されている。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状 況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	自ら考え学ぶ 授業づくりを 進めて、学ぶ 意欲と基礎学 力を向上させ る		継 続	・「子ども主体の 学び」全教室展開 を着実に進めてい く。 ・授業者が子ども ・教材への理解 を深めることで、 子ども主体の学 びを創っていく	・「授業で考える ことが面白い」 「他者との対話で 考えが深まる」と 実感する生徒の 割合を増やす。 ・教科嫌いを創ら ないように単元の 導入、社会との結 びつきなど工夫し ていく。	・生徒アンケート『授 業がよく分かる』の 肯定的評価を昨年 度以上 (R5 83.3%) ・『その教科が好き』 の肯定的評価を昨年 度以上 (R5 68.6%)	生徒アンケート結 果より ・「授業がよく分 かる」の肯定的評 価は 80.3% ・「その教科が好 き」の肯定的評価 は 69.2%	3	3	・授業改善のため の校内授業参観 (みるみる見せる weekⅡ)を実施 し、授業者のスキル アップと生徒の学 ぶ意欲の向上につ なげる。	生徒アンケート 結果より ・「授業がよく 分かる」の肯定 的評価は 82.7% ・「その教科が好 き」の肯定的評価 は 63.2%	3	3	3	・校内授業参観 (みるみる見せる week)や校内研 修だけではなく、 講師を招き理論 研修なども行い、 授業者のスキル アップを行う。
4	安心して通え る学校づくり	★	継 続	・安心・安全に学 校生活を過ごせる 環境づくりを行う。 ・ほっとルーム、か がやき、民間団体 等関係機関と連 携して、生徒の学 習できる居場所を 確保して、長期欠 席生徒数を減らし ていく。	・生徒が周りから 認められていると 感じ達成感を味 わうことができる 取組を行う。 ・ほっとルームと 教室を生徒が安 心して過ごせる 場所にする。	・生徒アンケート「自 分の良さは周りから 認められている」の 肯定的評価昨年度 以上 (R5 72.0%) ・長期欠席生徒数 昨年度以下 (R5 49名)	生徒アンケート結 果より ・「自分の良さは 周りから認められ ている」の肯定的 評価は 76.3%	4	3	・生徒個々の情報を 職員間で密に連携 し、生徒への声掛け の仕方を研修する。 ・9月末現在で、欠席 日数が15日を超えて いる生徒(8名)に対 して、より一層の声掛 けをし、安心して通え るよう配慮する。	生徒アンケート 結果より ・「自分の良さは 周りから認め られている」の 肯定的評価は 74.4%	3	4	4	・科学的な視点 から分析・取り組 みを行うために、 心理テスト『Q-U』 の活用を検討。科学的に学 級集団づくりの 分析・取り組みを する。
1	学校教育に対 する満足度を 高める。		新 規	・保護者、地域に 情報発信を行い、 学校教育に対する 満足度を高めてい く。 ・地域の一員とし て、地域に貢献す る。	・学校からの通信 やHPにより教育 方針や内容を伝 える。 ・地域へのボラン ティア活動を実施 する。	・中央中学校へ通 わせて良かったと思 う保護者の割合を 昨年度以上にす る。 (R5 93.9%) ・ボランティア活動に 1回以上参加する 生徒を70%以上	保護者アンケート結 果より ・中央中学校へ通 わせて良かったと思 う保護者の割合は 95.9% ・お父さんは「ボラン ティア活動に参加」 していると回答した 保護者の割合は 26.6%	3	3	・引き続き、学校から 通信やHPにより情 報発信を行う。通信 は6号以上、HPは6 回以上更新する。 ・各部活動でボラン ティア活動に積極的 に参加するよう声掛け をする。	保護者アンケート 結果より ・中央中学校へ 通わせて良かった と思う保護者の 割合は 94.5% ・お父さんは「ボラン ティア活動に参加」 していると回答した 保護者の割合は 16.9%	3	3	3	・地域へのボラン ティア活動は時 期や場所等の設 定を再検討し、教 員、生徒、地域に とって最善な活動 を検討していく。

4	教職員が元気に笑顔で力を発揮できる取組を進める	継続	<ul style="list-style-type: none"> 日々の仕事の中に充実感を感じ、満足度を高めている 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに元気に向き合える環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケート「仕事に意義ややりがいを感じている」の肯定的評価を昨年度以上 (R5 94.0%) 時間外勤務時間が月45時間を超える教職員を昨年度以下 (R5 月8人) 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末 仕事に意義ややりがいを感じている教職員 92.9% 時間外勤務時間が月45時間以上を越える職員数が月平均 9.75人 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 若手職員にも仕事を任せることによって一員としての実感や仕事の意義ややりがいを持って取り組めるように環境を整える。 業務の進捗状況を把握し、優先順位を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2月末 教職員アンケート「仕事に意義ややりがいを感じている」の肯定的評価 100% 時間外勤務時間が月45時間以上を越える職員数が月平均 9.3人 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 職員個々の『強み』を発揮できるよう、適材適所の校内人事に取り組んでいく。 全職員が平均的に年休が取得できるよう、計画年休制度が設定できるよう進めていく。
---	-------------------------	----	--	---	--	---	---	---	--	---	---	---	---	---

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。